

テーマは

自己紹介

「生きる」

自己紹介を兼ねて今回は少しボクのことをお話しします。

ボクは徳島の片田舎で生まれ育ちました。幼少期の一番大きな出来事は父親の死です。

1年あまりの癌闘病の末、父は42歳でこの世を去りました。ボクが小学校2年生の時でした。当時の田舎は両親のいない子どもに対して「片親」というレッテルを貼りました。何の気なしに大人たちが口にする「片親」という言葉は、8歳のボクにとって、とても傷つく言葉でした。勉強やスポーツを一生懸命頑張っても「片親なのにすごいなあ」と評されます。何かミスをしようものなら「片親やからな」と決めつけられます。当時のボクは、クラスメイトみんなの父親がいなくなればいい、と毎朝本気で祈っていました。

そうすれば、ボクは「普通」になれるのに、と。

それからは、たった一人の親である母が、みなから後ろ指を指されないように頑張っていたように思います。ただ、そんなボクの様子を見て、小学校3年生の時の担任の先生が一つの転機を与えてくれました。

父親参観日。父親のいないボクにとっては、地獄のような日でした。ただ、この日をきっかけにボクは教員を目指したわけです。が、この話はまた別の稿でお話します。

それからのボクにとって、人生の目標は43歳まで生きることでした。42歳で死んだ父親を、というより父親のいない自分の境遇を深く憎んでいました。ボクは父親より長く生きる。稚拙な思いですが、それだけ傷が深かったのだと思います。

その後、ボクは結婚し、3人の子どもたちにも恵まれ、43歳の誕生日を迎えました。そのとき、ボク自身が子どもを持つ父親として不意に気づいたことがあります。

「ああ、自分が死ぬことを一番悔しく、腹立たしく思っていたのは亡くなった父親であった。」と。

幼い自分の子どもたちを残して、去らねばならないことが、どれほど悔しく、天を、自分の病を恨んだことであろう、と。それからのボクの目標は、よく生きること、になりました。父親が生きたかった明日を、今日生きるボクにとって、今のこの瞬間を後悔したくはない。と思っています。

みなさん。どうしようもないことが世の中にはあります。
しかし、そのことに拘泥して立ち止まっていたら、明日はやってきません。
前へ、前へ。

大切なのは「生きること」。
そして、せっかくの一度きりの人生、「よく生きること」も必要かな、とボクは思っています。